

演題番号：8

演題名：管内食鳥処理場で認められた鶏の骨髄性白血病

発表者名：○阿左美有右、仁平美咲、安里優子、中村正治

発表者所属：中央食肉衛生検査所

## 1. はじめに

鶏の骨髄性白血病（以下 ML）はトリ白血病ウイルス（以下 ALV）に起因する腫瘍性疾患である。近年 ALV-J 亜群に起因する肉用鶏の ML が世界各国で報告され注目されるようになった。日本でも 1990 年代に同様の ML が発生したが、その後は清浄化が進み、野外での発生はほとんどなくなった。沖縄県ではこれまで ML の報告はなかったが、今回、管内食鳥処理場で処理された鶏について病理組織学的検査を実施したところ、複数羽のブロイラー及び採卵鶏に ML が認められたため、その概要を報告する。

## 2. 材料及び方法

平成 25 年に管内食鳥処理場で処理され、肝臓や脾臓の腫大等の肉眼病変を示した症例のうち、ブロイラー 18 羽（平均日齢 48 日）及び採卵鶏 3 羽（2 羽は 850 日齢以上）についての主要臓器及び骨を材料とした。これらを 10% 中性緩衝ホルマリン液で固定（骨は脱灰）し、定法により病理組織学的検査を実施した。また生材料より DNA を抽出して、ALV-A, B, C, D, E 共通プライマー（H5/AD1）ALV-J 特異的プライマー（H5/H7）を用いた PCR 法を実施し、ALV のプロウイルス DNA の検出を試みた。後者の増幅産物の一部についてはシーケンスを実施し、ALV-J との相同性を調べた。

## 3. 結果

病理組織学的検査：ブロイラーでは骨髄を含む各主要臓器で、骨髄芽球～骨髄球様を呈する腫瘍細胞が増殖していた。また全羽で大腸菌症様病変を併発していた。採卵鶏では各主要臓器で前骨髄球～後骨髄球様を呈する腫瘍細胞が増殖していたが、骨髄では明らかな腫瘍性変化はみられなかった。診断名はブロイラーを急性骨髄性白血病（骨髄芽球症）、採卵鶏を慢性骨髄性白血病（骨髄球腫症）とした。

PCR：ALV-A～E 共通プライマーでは標的遺伝子とされる 295～326bp 領域に明瞭なバンドが確認された。ALV-J 特異的プライマーでは特異的遺伝子とされる増幅サイズに近いバンドが確認されたが、シーケンスで ALV-J との相同性はみられなかった。

## 4. 考察及びまとめ

病理組織学的検査により全症例が ML と診断され、PCR 法により ALV の感染が確認された。かつて日本で流行したブロイラー種鶏の ML は ALV-J 亜群に起因し慢性的であったが、今回のブロイラーの ML は平均 48 日齢で既に発症しており、急性的といえる。癌遺伝子を有し急性白血病を引起す欠損型ウイルス（エンベロープを欠くため、感染力を持つには完全型ウイルスの存在が不可欠）が関与している可能性も考えられる。鶏白血病の清浄化に向けた適正な防疫措置が講じられるよう、各関連機関と連携しながら原因究明や汚染状況の把握等に取り組んでいきたい。